

◆ 看護部の教育



キャリアラダーレベルに基づいた
教育計画の実施をしています。

沖縄病院の教育理念

看護部の理念に基づく看護が実践できるよう、患者およびその家族の理解に努め、安全・安心を保証する質の高い看護サービスを提供できる看護者を育成する。

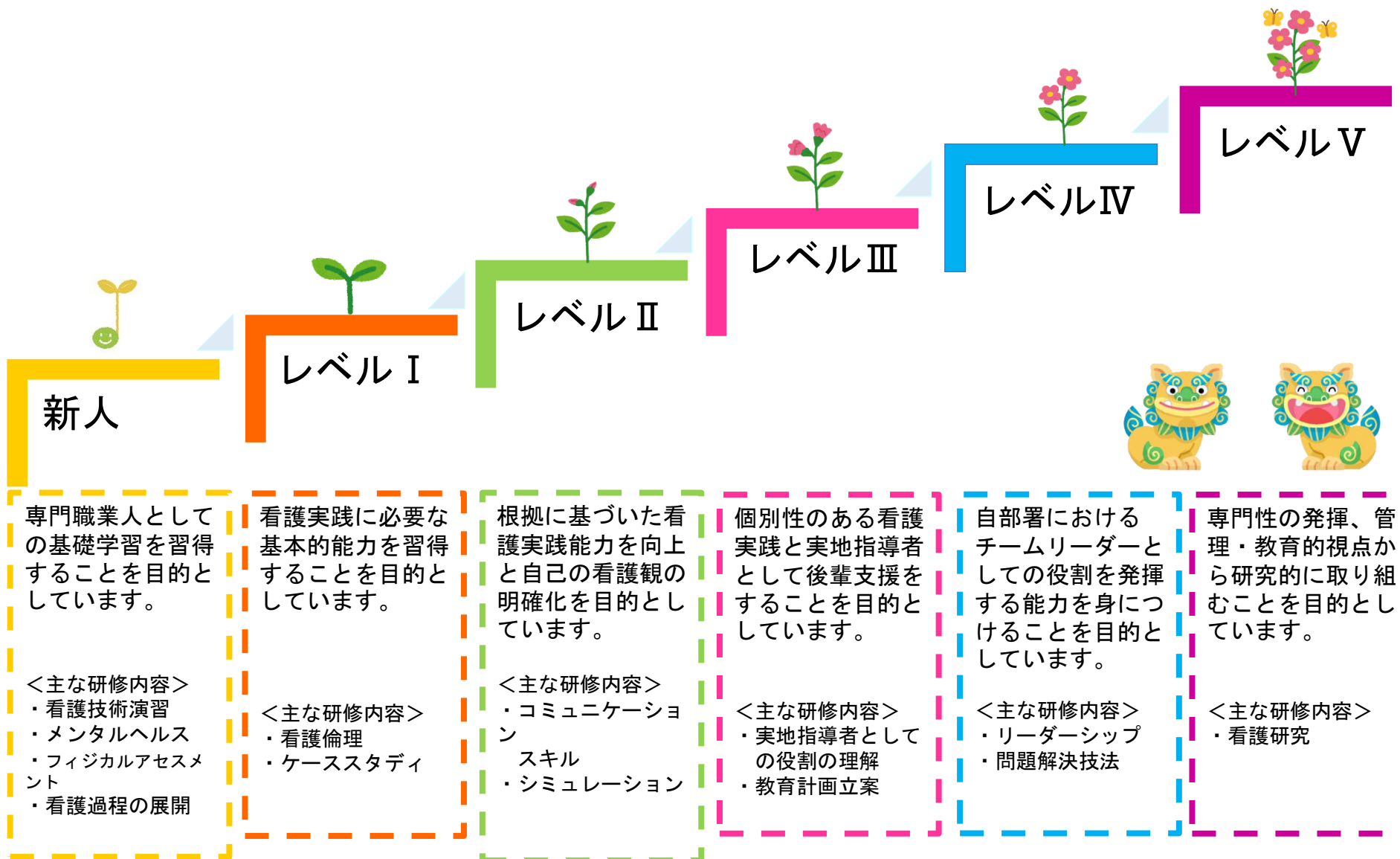


沖縄病院看護部の教育目的

1. 看護の専門的な知識、技術を習得し、倫理に基づいた看護実践ができる。
2. 患者および家族の人権を尊重し、良好な人間関係を築き、心のこもった看護が実践できる。
3. 社会人、医療人としての基本的なコミュニケーション技術を身に付け、患者・家族、医療チーム内の人間関係を築き、調整を図ることができる。
4. リスク感性を磨き、医療安全の確保ができる。
5. 専門職業人として多職種と協働し、チームの一員として看護の役割を発揮できる。
6. 問題意識や研究的視点を養い、看護専門職として主体的に学び、自己研鑽できる。

沖縄病院の教育プログラム

沖縄病院看護部の教育は、国立病院機構の全国統一である教育プログラム「看護職員能力開発プログラム：ACTyナース Ver. 2」に沿って、全看護職員を対象として、看護職員のキャリアパス制度をもとに、生涯学習ができるよう教育ラダー（クリニカルラダー）を備えています。



新人看護師の教育研修の様子



県内外の看護学校、看護大学を卒業し、毎年新人看護師が入職します。
新人看護師の教育研修の一部をご紹介します。

4月：看護技術研修 「標準予防策」

安全・安心できる医療・看護の提供には標準予防策を徹底することが必須です。
講義の後に、PPE着脱の演習や症例検討を行い、感染経路別の対策を考えていきます。

PPE着脱演習



1患者・1処置ごとに標準予防策をとることの重要性と、エプロン（またはガウン）・マスク・アイプロテクター・手袋 など実際に装着し、PPE（個人要望互具）の正しい着脱方法を確認します。



症例検討



講義で学んだことをもとに、症例に応じた感染経路別の標準予防策を考え、自分たちの考えを発表します。

4月：看護技術研修 「採血」



先輩の手技を確認した後に、シミュレーターを用いて採血の準備から実施までの一連の流れを学びます。

先輩から採血手技の直接指導を受けて演習

血管の走行や針を刺す角度など、どのようにすればよいか基本的な手技を確認しています。



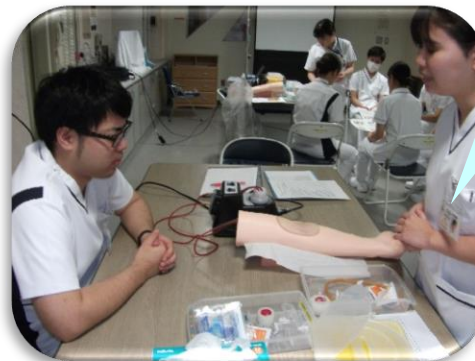
お互いの腕で血管の走行や弾力を確認中



駆血帯の巻き方のコツを教わっています。



採血の目的を説明し、同意を得て実施します。



いくらシミュレーターとはいえ、緊張・・・慎重に針をすすめます。



6月：夜勤シミュレーション



夜勤の心構えについてのディスカッションと、複数患者を受け持つ多重課題に取り組み、準夜帯を想定したシミュレーションを実施します。

夜勤の心構えをディスカッション

巡視時の患者観察のポイントを確認
(顔色・呼吸・胸郭の動き)

前勤務者からの申し送りとらわれず、自分で「見て・聞いて・触れて」患者の状態をアセスメント



自分の体調管理

優先順位の判断

急変に備え、物品の位置・連絡体制の確認
(ハリー・当直医師・師長への連絡)

先輩への**報告・連絡・相談**を意識した
日頃からのコミュニケーション

夜勤帯シミュレーション

患者状態（呼吸音）確認し、吸引実施



吸引が必要
そうだな



Aさん、
吸引しますね。

持続点滴の滴下調整



刺入部OK!
滴下速度OK!

Aさん、点滴を
しているところは痛
くないですか？

安全を考慮し応援要請による付き添い歩行



あれ？Bさん、どうしました？
危ないので戻りましょう





フィジカルアセスメントの基本を振り返り、手技の確認と症例検討を行います。

フィジカルイグザミネーション（触診・聴診・視診）の実施

触診



胸部の触診では、胸郭を包み込むようにして、左右差がないかを確認します。

聴診



呼吸音聴診時は、左右対称に1か所1呼吸ずつ確認します。

視診



目尻の方から光を当てて、まぶしくないように注意して対光反射を確認します。

模擬患者の状態把握と医師への報告方法の検討

模擬患者の症状から何を観察し、どのような状態であるか
SBARの視点で考えていきます。



- S：状況（患者に何が起きているか）
- B：背景（患者の臨床的な背景・状況は何か）
- A：評価（私が考える問題は何か）
- R：提案（私の提案はこれ）

患者状態を報告する際は、**看護師としてどのように患者をとらえ、医師に何を求めるのか**を明確に伝えることの重要性について学びます。



11・12月：看護過程の展開



ゴードンの「11の健康把握パターン」を用いて、各領域アセスメントから統合アセスメント、看護問題の抽出、優先順位の判断を行い、看護過程における自己の課題を明らかにし、受け持ち患者の看護展開につなげます。

11月：模擬患者事例での事例検討



各領域アセスメントから統合し、アセスメントしたことをもとに、優先順位を検討し、看護目標・看護計画を立案しました。

お互いのグループで立案した看護問題の優先順位が異なっていたため、アセスメントの根拠を確認し、討議します。



12月：実患者事例の振り返りとグループワーク



先輩の支援を受けながら実患者の入院受け入れを行い、患者を全人的に捉え、看護の方向性が明確にできたかなどグループメンバーで課題を共有します。



目の前の情報だけにとらわれず、フィジカルアセスメントの活用や、予測性を持ち看護問題の抽出と看護計画を立案することが重要です。